

第2回授業づくり研修会から



9月13日(金)に小中一貫教育校 稲田学園において第2回授業づくり研修会が行われました。

午前の部では、中学校の先生が小学校の授業をT・Tで行ったり、単独で担任したりする授業が見られました。

午後には9年生(中学校3年)の数学の授業、研究協議その後、佐藤学先生(東京大学名誉教授)の講演があり、有意義な研修会となりました。

佐藤学先生の講演からいくつかを紹介します。

①学力向上の要件として

・誰もが安心して学べる教室環境づくりが必須要件となる。一人もひとりにしない教室、一人も排除しない教室、一人も差別しない教室を作り上げていくことが必要である。

・聴きあう関係に基づく協同的学び、探究的学びを組織していること。「～じゃない?」「ここどういうこと?」と探究心をもって取り組み、学びを深めていく子どもたちを育てていく。

②グループ学習の効果を上げるためのポイント

<3つのポイント>

- ① 話し合いにしない。聴き合いにする。話し合いと学び合いは違う。
- ② 教え合いでなく、学び合いにする。
- ③ 全体での発表は少ないほうが良い。

さらに

- ・机を動かさず体の向きを変えて行うグループ学習では、効果は半減する。
 - ・グループ間の移動は行わない。
 - ・グループ学習の人数は4人がベスト。
- 小学1、2年生はペア学習が大好き。2人のペア学習であれば思考ができる。



美人の25か条

◇宝塚歌劇団には、ある「25か条」が誰でもが目につく場所に貼り出されていたそうです。それを漫画家の新條真由さんが、逆の言葉に置き換え「美人の25か条」を作りました。

- ① いつも笑顔が絶えない。
- ② ありがとうの言葉をよく口にする。
- ③ なんでもおいしく頂ける。
- ④ 覇気がある。
- ⑤ 根拠のないプライドは持ち合わせていない。
- ⑥ 愚痴をこぼさない。
- ⑦ 希望や信念がある。
- ⑧ いつも周りの人に感謝している。
- ⑨ 自分を大切にしている。
- ⑩ 声に張りがあり、元気がいい。
- ⑪ 小さなことでクヨクヨしない。
- ⑫ 人に嫉妬される存在である。
- ⑬ 瞳が輝いている。
- ⑭ 常に口角が上がっている。
- ⑮ 他人のせいにしていない。
- ⑯ ぶれない。
- ⑰ いつもポジティブシンキング
- ⑱ 前に進むための努力を怠らない。
- ⑲ 人のためにする労力をいとわない。
- ⑳ 信頼できる人が大勢いる。
- ㉑ 何事にも意欲的である。
- ㉒ 常に謙虚な気持ちで人を見下さない。
- ㉓ 周りのアドバイスや忠告に耳を貸す。
- ㉔ 人の振り見て我が振りを直せる。
- ㉕ 周りを明るくパワフルにする。

「人として良く生きたい」という思いは、誰しもみな共通だと思います。価値観が多様化している現代、自分らしく生きていくためにも、自分の歩幅に合わせて少しずつでも前進していきたいものです。魅力ある教師を目指して!

計画訪問 前半を振り返って



今年度の計画訪問の前半が終了し、授業に真剣に取り組む先生方の姿を拝見することができました。さらに、各学校での現職教育において取り組んでいる授業研究にも参加させていただき、先生方と一緒に授業について考える機会を得ることができ感謝申し上げます。

学校は、子どもたちとともに先生方も育つ場です。今後も「授業と授業研究を第一優先にした学校づくり」をお願いいたします。

子どもを引きつける発問をしたい

小学校低学年の国語の授業。子どもたちは元気いっぱい、先生も元気いっぱい。子どもたちは、本気になって活動していました。少しだけ、子どもたちの動きが止まってしまう時間帯がありました。先生の良かれと思って発した補助発問が、子どもたちを戸惑わせてしまったようです。先生がその様子を察し、修正して、活発な学習活動が復活しました。ここで、改めて発問のポイントをおさえてみましょう。

- ① 一つの発問でより多く答えられるように吟味する。
- ② 子ども一人ひとりの能力、心情などを十分考慮し、あらかじめ反応を予想して発問する。
- ③ 授業のめあてや子どもの実態に即しながら発問の目的や内容を明確にし、問いかけ方、タイミングに配慮し発問する。
- ④ 考えをまとめる時間に応じるため、指名は急がない。
- ⑤ 子どもたちの発言や発表をつなぎ、子どもたちに広げ、思考に深まりを持たせる。



主体的な学びを実現するためのめあてを作りたい

たとえば、その時間のめあてが「〇〇の気持ちを考えよう」とか「筆算の練習をしよう」などの、あまり工夫がないものでは、子どもたちの「おもしろい!」「よし、やるぞ。」という気持ちを引き出すのは難しいですね。また、技能中心の教科で「パスの仕方を工夫してゲームをしよう。」と教師が一方的に提示するよりも「パスがつながるようにするには、どのように動けばよいのだろうか。」と設定すれば、パスを出す側だけでなく受ける側の子どもたちも一緒に考え、運動します。めあてや課題の設定は、学習の主体者である子どもたち自身のものとして設定したいものです。

◇課題解決の必然性があり、子どもが解決の見通しを持てる課題を。

◇「ジャンプ」できる適切な難易度で一人ひとりの興味・関心を引き出せる課題を!



台風19号による被害はこれまでにない大きなものでした。子どもたちのなかには被災し、つらい思いを乗り越え通学している子どもたくさんいます。教師の笑顔は、子どもに伝わり、子どもは教師の笑顔や声に安心感を覚え、授業に溶け込んでいきます。笑顔が教室いっぱいに広がる学級で学び合いを展開できれば、子どもたちは学校が大好きになるはず。台風19号から学ぶことはたくさんありますが、まずは、子どもたちを優しく大きな心で包み込んであげましょう。そして、心も体もたくましい子どもたちを育てていきましょう。